

「新・下田図書館のあり方」

下田市らしい図書館

文化・歴史・観光など地域性を活かした図書館

すべての市民が利用しやすい図書館

多くの人利用しやすい立地
誰もが使いやすく、行きたいと思う図書館

地域の文化・情報・知・交流・くつろぎの拠点となる図書館

変化する時代や社会の中で発生する市民の様々な課題解決の場
交流・参加などさまざまな連携によるサービスを提供
図書館が、『本と人』、『人と人』、『人とまち』をつなぐ

新しい時代に対応できる図書館

情報化社会に対応できる
ICT化

安心安全な図書館

津波浸水域外、耐震性

利便性・交流性・発展性を重視

中心市街地が津波浸水域である下田市が安全性を担保しながら、
利便性・交流性・発展性・実現性を確保しつつ立地するためには

「課題」

利便性

多くの人利用しやすい
自動車以外の交通手段
駐車場の確保

発展性

にぎわいの創出
まちづくりに寄与
中心市街地
他の文化教育施設との連携

交流性

人があつまりやすい



安全性

津波浸水域外

経済性

コスト

実現性

市の財政状況
既存の市有地・施設の有効活用

**図書館像を見据えた工夫、
思い切った発想の転換が
必要**

「新・下田図書館」実現させるためには

図書館の機能分化

- ・貴重資料、郷土資料は、災害リスクの低い場所に分けて置き、安全性を確保するとともに、市史編さん室と合わせて、調査、研究に特化させる。
- ・利便性・交流性・発展性を重視したいため、その他は中心市街地に立地させる。

図書館資料への割り切り

- ・将来の電子化、デジタル化を視野に、容易に購入できる一般資料は必要最小限とし自館にないものは県内図書館との相互貸借制度を活用し対応する。
- ・書庫は最小限で対応する。

空間の棲み分け

- ・交流性、滞在型をメインに考え、全体的には雑踏のあるくつろげる空間とし、『静の空間は別に作り、利用者みんなが過ごしやすくするため、空間の棲み分けにより対応する。』

複合化、既存施設への増設及び改修

- ・下田市の将来性や未来の図書館像の変化など不透明なため、施設規模は既存施設への増設及び改修で対応することも検討する。
- ・整備後のランニングコストの縮減、業務の効率化のため、複合化も検討する。

こんな図書館がいいなあ・・・
(図書館視察から委員が感じたこと)

適度なざわめきの心地よさ
カフェ設置で滞在型に
規則で縛らずに利用者のマナーに委ねる
他施設との複合化で利用客増の相乗効果を得られる
図書館の魅力は、広さや蔵書数に比例しない
機能分け、蔵書への割り切り(持たないという選択)
市民の居場所(一人で静かに、子ども連れ、仲間同士、小中高生)
図書館を含む文化施設でまちのにぎわいを創出できる
図書館から交流機会の提供ができる

